

39 キイツチトリモチ 〈ツチトリモチ科〉

指定 昭和 48 年 3 月 8 日 町指定天然記念物(植物)
所在地 尾之間
管理者 屋久島町

おもに海岸近くの自然林に生える多年草寄生植物。トベラやネズミモチ、シャリンバイの根の末端に寄生する。雌雄同株。高さ 3~13 ㍎、直径約 2 ㍎の円筒形の茎を地上に出す。根茎はツチトリモチとは異なり皮目がなく、多数の小さな根茎支が集まっている。1 個の根茎から発生する花茎の数は 3~10 本。ふつう花茎を生じた株はその年限りで腐って消滅する。花穂は長い卵形で先端が細くとがり、表面の色は黄色。1 個の花穂に雄花と雌花がつく。雄花は花穂面に散生し、肉眼ではっきり見える大きさだが、雄花は花穂面を被っている小棍対に埋もれているので、外からは見えない。雄花は短い柄があり、花被は 3 裂して、内側がくぼんだまま開く。中央に柄のない 3 個の葯があり、白色の花粉を出す。この時期には花穂面より出る蜜を求めて、アリ類が群がり、受粉の媒介をする。盛期を過ぎると、雄花は茶褐色に変色し、やがて黒化する。雌花は花被がなく、子房は紡錘状で大きくオレンジ色。花柱ははじめ短いが花の盛期に急に伸びだし、柱頭を小根体の間から現わして、受粉する。花期は 10 月~12 月。果期になっても花穂は形態が変わらないため、花期と混同されやすい。

キイツチトリモチは文字どおり喜入町で最初に発見されたことから、この名前がついた。ツチトリモチは根茎から良質の鳥もちが取れるのでこの名。